知行合一

天災は忘れた頃来る
寺田寅彦（物理学者・随筆家）

学校教育目標
潤いと輝きにあふれる学校

芦北町立田浦中学校
学校だより　第９号
令和元年７月１２日
文責　校長　畑口益喜

防災講話(PTA講演会)

１２日（金）、田浦水害の日に合わせて、長谷川勝さん（水俣市総務企画部危機管理防災課危機管理官地域防災マネージャー）を講師にお招きしてＰＴＡ防災講話を行いました。

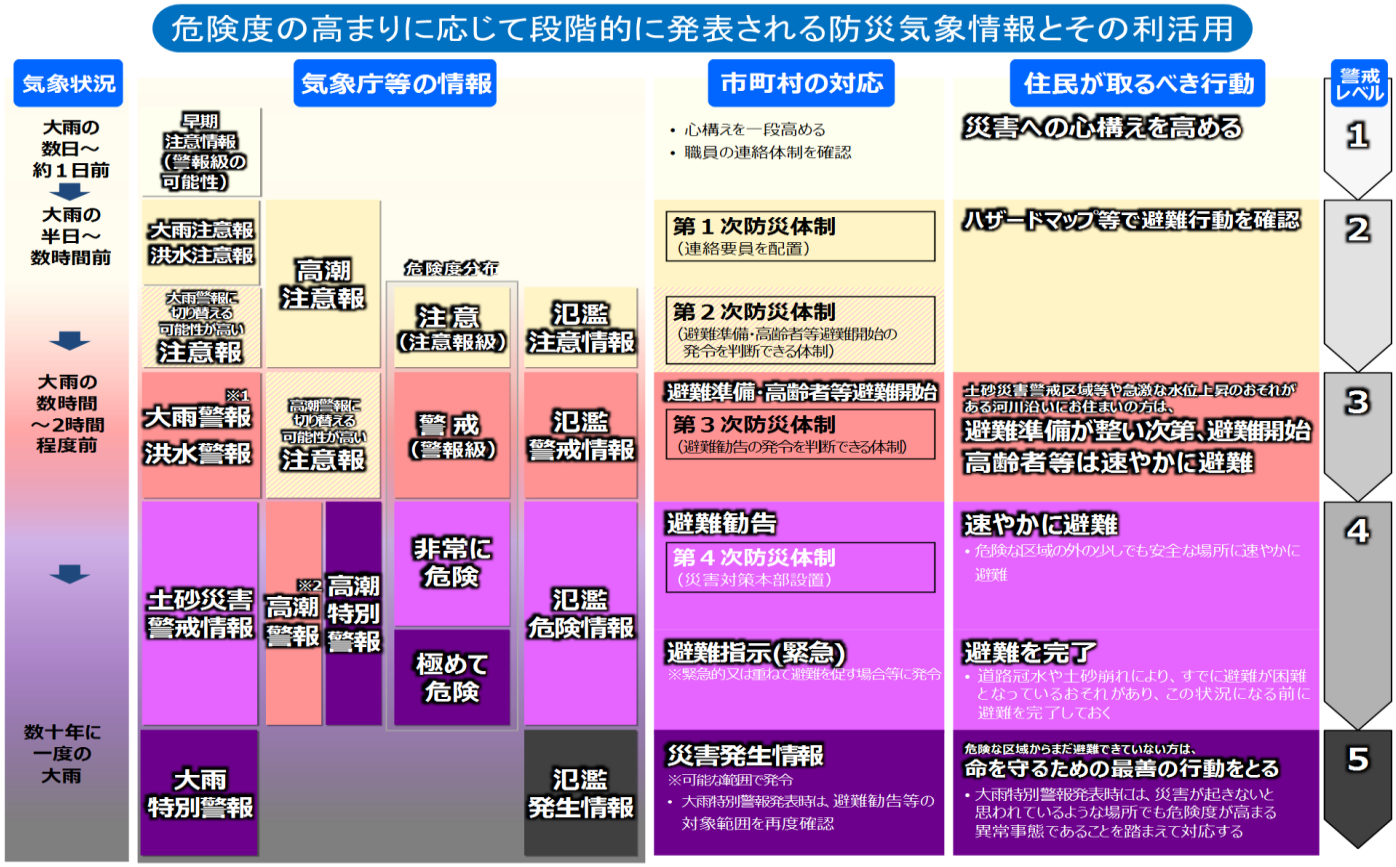
自衛隊員として阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地震や各地での豪雨災害への災害派遣の経験をもとに、行政機関による公助と合わせ、自助・共助による安心・安全のネットワークづくりをすることの大切さについてお話しいただきました。「朝降って、昼前に止み、夕方降って、また止み、深夜にまた降る。」という熊本の雨の降り方の特徴に、「（途中、途中の小康状態に）安心して避難が遅れることがあるのか。」という声が聞こえました。

警戒レベル4は全員避難です！

【気象庁のＨＰより】検索してみましょう！

「避難勧告等に関するガイドライン」（内閣府（防災担当））が平成 31 年 3 月に改定され、住民は「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自らの判断で避難行動をとるとの方針が示されました。

この方針に沿って自治体や気象庁等から発表される防災情報を用いて住民がとるべき行動を直感的に理解しやすくなるよう、5 段階の警戒レベルを明記して防災情報が提供されることとなりました。自治体から避難勧告（警戒レベル４）や避難準備・高齢者等避難開始（警戒レベル３）等が発令された際には速やかに避難行動をとってください。



※1 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、避難準備・高齢者等避難開始（警戒レベル3）に相当します。
※2 暴風警報が発表されている際の高潮警報に切り替える可能性が高い注意報は、避難勧告（警戒レベル4）に相当します。

「避難勧告等に関するガイドライン」（内閣府）に基づき気象庁において作成

【秘密の部屋】田浦水害について、おじいちゃん、おばあちゃんから聞いてみるのも良いですね。

【七夕飾り】010707
　今日は七夕。私は田浦１番区の青空子ども会でしたが、昔は旧暦の８月７日に子ども会で七夕飾りを作っていた記憶があります。
　生徒玄関・職員玄関に、たのうらっ子応援団による七夕飾りが置かれています。サトイモの葉に溜まった夜露を集めてすった墨で文字を書くと上達するといわれていることから、短冊には上達や夢を書いたほうが良いそうです。短冊を見てみると…。
「県中体連、初戦突破」、「志望校合格」、「宿題嫌いだから減らして欲しい。」「身長１８０ｃｍになりたい。」「キンプリのライブでファンサーがもらえますように。」
　圧倒的１位は「お金が欲しい。」でした。田浦中生よ、大志を抱け！（H）

【田浦水害１】010712
　高校２年生だった昭和５７年７月１２日（月）の昼前のこと、「田浦中出身の生徒は集まってください。」という放送が入りました。何かと思って指定された教室に行くと、「田浦が大変な大雨になっていて、帰すことができない。水俣の友達の家に泊まるように。」との説明がありました。「いつも通り朝６時過ぎの列車に乗って駅を出たのに、水俣もそんなに降ってはいないのに。急に泊まれと言われても困るのに。」情報源もテレビ中心で限られており、私たち高校生には切迫感はありませんでした。
　午前１０時までの１時間の雨量は６５mm、１日の雨量が３２８mm。不知火海の満潮とも重なって田浦川等が氾濫、肥後田浦駅周辺や小中学校周辺も家屋への浸水が続出したとのこと。テレビには駅前の被害の様子が映し出されました。
　高校の隣にあった同じクラスの友達の家に、田浦中出身の３人で泊まらせてもらいました。テレビのニュースはずっと大雨関係ばかり。不安な夜を過ごしました。
翌朝、高校が借りたバスで田浦へと向かいました。国道３号線は渋滞、８時間近くかかって田浦に着きました。
　途中は泥道。船江付近では、甘夏ミカンの木が根が付いたままで海に浮かんでいました。色の変わった壁を見て、水の高さに驚きました。町中、泥の匂いがしました。あちこちに消毒のための石灰が巻かれていました。（H）

【田浦水害２】010713
　当時の記録を読むと、田浦町では１１日から１４日にかけて１時間雨量６５mm、２時間雨量１２０mm と短時間に集中して降り、田浦川等、吉尾川等が氾濫して大きな被害が発生したとあります。
　私は水俣にいたため、田浦水害のまさにその時の怖さは体験していません。聞くところによると、小学校の運動場横の土手が決壊し、大量の水が流れ込み運動場が見る見るプールのようになったそうです。低学年の子どもたちは怖くて泣きだしたそうです。
　本校のＯ先生は当時保育園入園前だったそうですが、庭に水がどんどん入ってきた記憶があるそうです。お母さんは小学校からの電話連絡を受け、膝上まで水につかりながら、宮坂医院前の三差路に張ってあったロープを伝って、低学年のお姉さんを学校まで迎えに行かれたそうです。
　私の父は学校からの電話を受け「学校が一番安全だけん、学校に残してくれ。」と言ったそうです。家庭も学校も判断が難しい状況だったと思います。
　ＰＴＡ講演会は、田浦水害の日に合わせて防災講話を行いました。「天災は忘れた頃来る」物理学者で俳人の寺田寅彦氏がしばしば語ったという言葉があります。災害は語り伝えないと風化していきます。田浦中では、７月１２日を命を守るために「絶対はない」「想定外のことを想像する」と言うことを肝に銘じる日、防災について考える日にしています。（H）